

はじめに

有機農業については、我が国では「有機農業の推進に関する法律」において“化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業”と定義されているところです。

また、農林水産省では「みどりの食料システム戦略」（令和3年5月策定）の中において、有機農業現場での実践技術の体系化と普及、スマート技術等による次世代有機農業技術の開発・確立、化学農薬等に依存しない栽培技術の一般化を進め、2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができる次世代有機農業技術を確立し、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大していこうという目標を掲げています。消費者からも環境にやさしい農産物、安心できる農産物を求める声もあるところです。

しかしながら、有機栽培は慣行栽培に比べて手間がかかる上に病虫害のリスクが高く、収量も低いといった認識があり、有機栽培に取り組む生産者は極めて少数です。

有機農業の拡大実現に向けては、既に現場で実践されている持続的な農業生産や有機農業に係る様々な生産技術を横展開することにより、取り組む農業者を増やしていくことが重要です。

福岡県内でも、環境負荷低減活動に関心を持つ方、こだわりを持った農産物を食べてもらいたいと考える方など有機農業に取り組む方々が少しずつ増えてきています。今回そのような方々取材する機会に恵まれました。親の代から有機農業に取り組む方、農業未経験から有機農業を始めた方、会社方式で事業拡大を進める方など多様な作物を多様な方法で有機農業に取り組む方々がいらっしゃいました。

福岡県拠点では、令和5年度に作成した「有機栽培（BLOF）の取組事例 in 福岡 Ver.1」に引き続き、今回、有機JAS認証取得した方を中心に取材した取組状況を「有機栽培の取組事例 in 福岡 Ver.2」として作成しました。事例集という形で御紹介することで、これから有機農業に取り組んでみたいと思っている方々、実際に取り組んでいる方々への参考となり、現場の実態に即した形で持続的な農法への転換を進めるお役に立てば幸いです。